

2012年 5月 31日

## 経済といのちを天秤にかけることはやめてください 野田首相に大飯原発再稼働を断念することを求める 医療・福祉労働組合連名アピール

福井県医療労働組合連合会執行委員長	山川 秀昭
大阪医療労働組合連合会執行委員長	西原 美鶴
京都医療労働組合連合会執行委員長	森田 しのぶ
兵庫県医療労働組合連合会執行委員長	中竹 誠一
滋賀県医療労働組合連合会執行委員長	宮武 眞知子
奈良県医療労働組合連合会執行委員長	南村 初美
和歌山県医療労働組合連合会執行委員長	小濱 正孝
全日本国立医療労働組合近畿地方協議会議長	宮寄 剛生
全日赤近畿地方協議会議長	今堀 美智子

東日本大震災によって起きた福島原発の事故は、日本のみならず世界中の人類や動植物に深刻な影響を与え続けている。東日本大震災が日本と人類に与えた教訓は、原発の稼働を中止することと、自然エネルギーへの転換にむけた最大限の努力を行うことである。そして、被曝されたすべての人たちに最高の医療を提供するとともに、人権に配慮した健診制度を確立するなど、いのちと健康最優先の政治を行うことである。

ところが、福井県おおい町では、4月26日に開催された住民説明会で、原発の安全性、事故が起きた際の放射能の危険に対する疑問が多く、町民から出されたにもかかわらず、おおい町議会では14日に再稼働を容認する決議が行われた。この決議の持つ意味をすべての国民が自らの問題としなければならない。私たちの子どもたちと日本の未来が危機にさらされている。

国と福井県は、福井の地に15基の原発を建設し、全国でもっとも原発の集中した、最も危険な地域にしてしまった。原発を前提とした行政・経済・雇用を作り上げてしまった責任を問わなければならない。同時に、一刻も早く、脱原発の行政・経済・暮らしに転換させなければならない。それは、住民のいのちと暮らし、安全を守る国と県、地方自治体の責任である。

私たちは、いのちを守る医療労働者として、原発の再稼働に反対する。そして、原発に依存してきた行政・経済・産業・雇用などを変革しなくてはならない。今年の電力不足を補うためや、現在の企業活動を維持するために、十万年もの長期にわたり、いのちと健康に深刻な影響を引き起こす危険性がある原発再稼働を私たちは断じて許すことはできない。

私たち医療・福祉労働者は、いのちと安全を守る、この一点で、大飯原発をはじめとするすべての原発再稼働に反対することを呼びかけます。

以上